

初めての三宅島～今春のようす

増田 浩司

今年の5月18日（金）夜から20日（日）夜にかけて、船で初めて三宅島を訪れました。ツアー中天候は穏やかで、鳥の出はいつになくよかったらしく、見づらいと言われるウチヤマセンニュウ、カラスバト、亜種タネコマドリも十分見ることができ、アカコッコやイイジママシクイも何度も見ることができました。種数は多くないが、固有種を中心に鳥の密度が高い場所であると実感しました。バスで一周して、島内の様子を見る機会があり、主に噴火による跡地を訪れましたが、生々しい溶岩流の跡などが残る一方で、回復しつつある自然を間近に感じることができました。



主な探鳥地での状況

- **伊豆岬**……岬近くの草原では、複数個体のウチヤマセンニュウ〔写真〕がさえずっている様子を見ることができた。遠くだが、カラスバトも複数羽確認。数多くのアマツバメが舞っており、比較的低い位置を飛翔した際には胸から腹にかけての縞模様を明瞭に見ることができた。また、海側ではカツオドリ♀1羽の飛翔も確認。
- **薬師堂**……鬱蒼とした森といった感じで非常に薄暗い。ここでは時折道に現れるアカコッコと亜種タネコマドリを確認。タネコマドリの中には幼鳥も交じっていた。
- **大路池**……最も時間を割いたのがこの場所。早朝は数多くの鳥がさえずっており、「日本一のさえずりの小径」にふさわしい状況であった。アカコッコ、亜種タネコマドリ、イイジママシクイ、カラスバト、亜種モスケミソサザイ等を確認。特にイイジママシクイはソングポストで比較的高い間さえずってくれ、ゆっくりと観察することが出来た。亜種タネコマドリも複数羽がさえずっており、道に何度も姿を現した。なお、他にアカガシラサギとヨシゴイも出現。
- **アカコッコ館**……アカコッコ等を観察。水場には珍しくコサメビタキも出現。
- **宿（新鼻荘）**……餌台に亜種オーストンヤマガラが寄ってくる。亜種シチトウメジロや近くにはインビヨドリ、カラスバトの姿も。
- **海上**……海鳥の出はあまり良くなかった印象。オオミズナギドリ、ハシボソミズナギドリが主。アカエリヒレアシシギをкаろうじて見ることが出来た。

ウチヤマセンニュウの観察

伊豆岬の陸側・草地にて観察。風が穏やかだったせいか、草の先端部分に出てきてさえずっている個体が多かった。飛んでいる個体も含めると10羽以上いたものと思われる。

9月の研究部月例会のご案内

今回の月例会では、『多摩川自然めぐり 美しい生きものたちとの出会い』の著者で講師の藤原裕二さんから、「多摩川の源頭から河口、周囲の森林、そして、そこに息づく生きものたちの姿。そして生きものについては、野鳥はもちろん、蝶や魚、哺乳動物などの美しい種や“これが東京の近く？”と驚くような事例も紹介します。」とのメッセージをいただいています。ご期待ください。また、今秋実施予定の東京湾に関するシンポジウムのことなども話題になります。

【日時】2012年9月7日（金）午後6時30分開場、7時～9時

【会場】日本野鳥の会東京・事務所 【定員】20名 【参加費】無料